

# 短大 生調査を通じた教育の有用性の検証

### 2017年度 課題研究集会

## 短期大学教育は「役に立つ」のか 短大生調査から見た有用性

### 短大を取り巻く環境

高度情報社会化や、少子高齢化の進展による十八歳人口の減少は、高等教育機関に大きな影響を及ぼし始めている。このような状況の中、新たな社会に対応する人材養成や、地域の活性化など、大学に求められるものは未だかつてなく大きくなっている。政策的にも、東京都二十三区内定員抑制に見る都市と地方の大学配置問題は、近年では高等教育の無償化も議論がされるようになり、社会にとって高等教育の持つ意味やその役割をめぐり、よりドラマティックな改革が求められている。

本研究の主たる対象である短期大学を見ると、学生の四年制大学志向は、専門職大学制度も創設され、短期大学を取り巻く環境はより厳しくなっている。しかしながら、短期大学卒業生の地元就職率は高く、幼保・介護などの人材需要の高い領域に大きく貢献している事実もある。また、高等教育へのアクセスの拡大という観点からも、短期大学が果たす役割は今もなお大きいと言える。本研究では、短期大学教育の成果をデータに基づき示し、各短大における更なる発展と改善に資する可能性を明らかにするものである。

### 短大生調査とは

平成二十年度から十年に渡り、「短期大学における主体的改革・改善」を資する自己評価方法に関する調査研究」の課題のもと、「短期大学における学習効果測定法の開発」として研究開発を進めてきた。二〇一七年度の短大生調査は、五十六短大からおよそ一万九千の短大生が参加した。前身の調査から十年目を迎える、参加短大数は百四十校を超え、二〇一八年度より事業化する予定となっている。

質問項目	回答者数 n	平均 mean	標準偏差 SD	効果量 d	JJCSS-1988	変化			
家族や親せきからのすすめ (親の希望だった。JJCSS)	7,145	1.93	0.914	17,681	2.49	1,007	0.57	++	変わる短大の選び方
高校の先生からのすすめ	7,107	2.10	1.015	17,668	2.47	1,032	0.36	+	
キャンパスの雰囲気良さそうだった (校風に魅力があった。JJCSS)	7,130	2.44	0.957	17,652	2.65	990	0.22	+	
専門分野以外の幅広い内容が学べる (専門学校より幅広い勉強ができる。JJCSS)	7,127	2.74	0.988	17,669	2.33	978	0.42	+	
4年制大学に編入することもできる	7,090	2.09	1.050	17,668	1.86	974	0.23	+	
自分の興味や専門分野の内容を学べる	7,135	3.12	0.920	17,662	3.46	771	0.43	+	
就職に有利	7,107	2.83	1.026	17,670	3.11	918	0.29	+	
就職するのに必要な資格が取れる (資格を取るために必要だった。JJCSS)	7,108	3.13	1.009	17,670	3.46	821	0.37	+	
4年制大学より早く就職できる	7,098	2.43	1.058	17,657	2.72	1,065	0.27	+	
自宅から通学できる	7,111	2.81	1.191	17,662	3.07	1,102	0.23	+	
4年制大学より学費がかからない (学費が適宜であった。JJCSS)	7,098	1.98	0.978	17,653	2.81	1,067	0.79	++	
学生同士でディスカッションをする	7,120	2.16	0.937	17,672	3.08	821	1.08	+++	変わる学び方
図書館を利用する	7,135	2.75	1.013	17,658	2.46	917	0.30	-	
提出期限までに宿題を完成できない	7,119	2.04	0.934	17,658	2.02	928	0.03	=	
授業をつまらなく感じた	7,145	2.93	0.757	17,642	2.84	784	0.11	=	変わらない授業態度
授業に遅刻や欠席をした	7,152	2.40	0.973	17,665	2.35	934	0.06	=	
授業を受けた時間数	7,066	17.40	7,043	17,595	17.68	6,533	0.04	=	増える授業外学習時間とバイト
授業以外の学習時間数	7,157	4.31	4,635	17,703	7.21	7,890	0.41	++	
アルバイトや仕事の時間数	7,107	8.47	8,354	17,630	10.54	8,269	0.25	+	
1 一般的な教養	7,150	3.63	0.776	17,652	3.69	706	0.09	=	
2 専門分野や学科の知識	7,143	3.97	0.732	17,665	4.19	697	0.31	+	
3 論理的に考える力 (論理的な能力。JJCSS)	7,123	3.41	0.676	17,651	3.59	678	0.27	+	
4 異なる文化や考えを持つ人々を理解する力 (異文化の人々に関する知識。JJCSS)	7,130	3.40	0.692	17,659	3.64	751	0.33	+	
5 他の人と協力する力 (協力的な能力。JJCSS)	7,137	3.65	0.750	17,648	3.88	775	0.3	+	
6 現代社会を包摂する様々な問題を理解する力 (公民が直面する問題の理解。JJCSS)	7,140	3.33	0.632	17,652	3.59	710	0.37	+	
7 文章(レポートなど)を書く力	7,136	3.38	0.679	17,656	3.72	755	0.47	+	
8 数値やデータを理解する力 (数値的な能力。JJCSS)	7,129	2.94	0.660	17,639	3.30	715	0.52	++	
9 計画性/スケジュール管理能力 (時間を効果的に利用する能力。JJCSS)	7,136	3.47	0.736	17,651	3.64	767	0.22	+	
10 地域や社会に貢献する意識 (地域社会が直面する問題の理解。JJCSS)	7,135	3.32	0.636	17,655	3.48	722	0.22	+	
1 共通科目あるいは教養科目の授業	6,825	3.34	0.786	17,297	3.47	908	0.16	=	
2 専門科目の授業	6,929	3.59	0.835	17,417	3.68	939	0.1	=	変わらない満足度
3 将来のキャリアと授業内容の関係性	6,798	3.31	0.782	17,062	3.49	941	0.2	+	
4 学生生活の充実度	7,035	3.82	1,099	17,536	3.65	1,096	0.15	=	



### 短大教育の経年変化

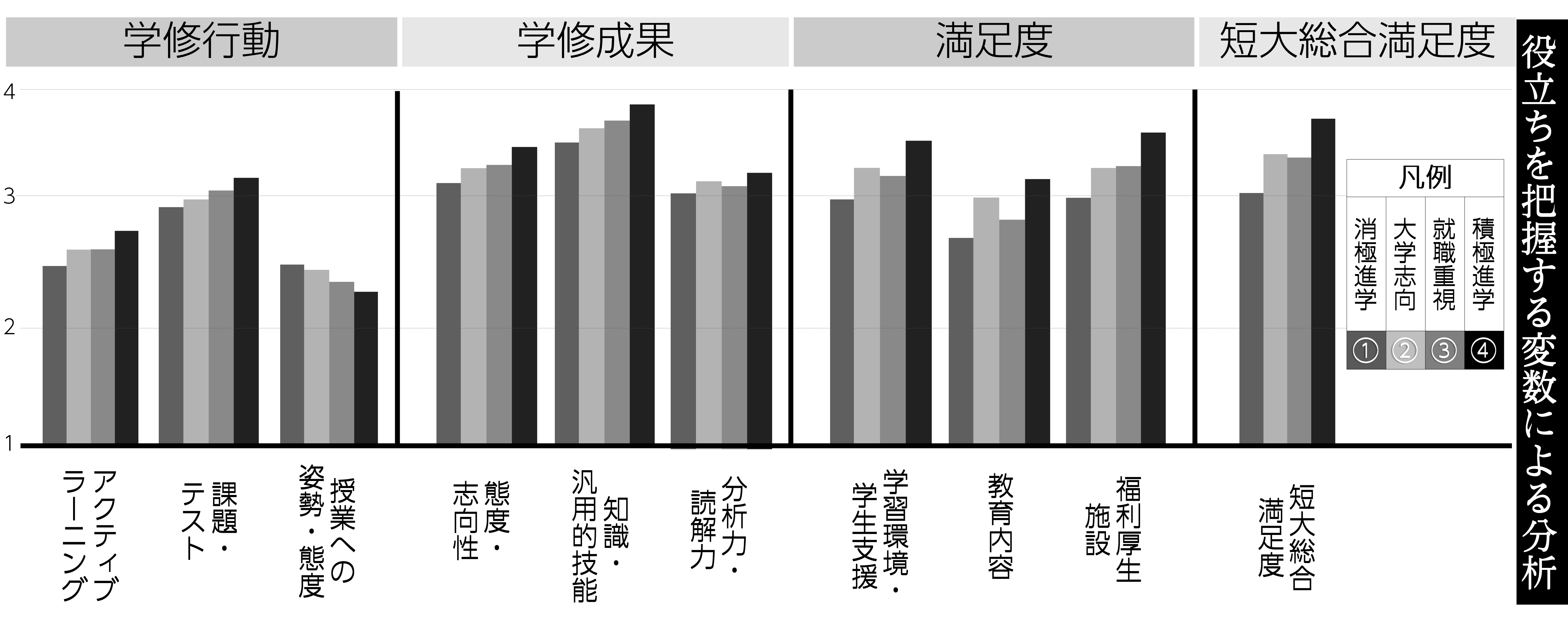
左記の表は、平成二十一年度と平成二十八年年度の短大生調査(JJCS S・TDCS)を比較したものである。短大教育の有用性を考察するにあたり、「進学理由」「授業に関する経験」「知識・能力の変化」「満足度」について、その現状を示している。なお、双方の調査において異なる表現や尺度を用いた質問については、双方を合わせて比較可能な形とした。

短大選びは、家族や高校の先生の影響を受けるようになってきている。進学理由として、職業を重視する傾向がより強まっている。授業については、ディスカッションが大幅に増えている一方、図書館の利用が減少していることが示されている。また、授業以外の学習時間も増加し、学修成果の向上も見られ、短大教育の質は向上していると言える。学習成果の向上感を満足度に結び付けられるかが一つの課題と言える。

短大教育の懸念点は、自宅通学の増加、四年生大学より学費がかかるなど、経済的アルバイト時間の増加など、さらにはな問題を抱えている学生の増加が示唆されることである。

### 短大教育は役に立っているか？

この調査の結果を用い、進学理由別の学生タイプと入学後の学修行動・意識の現状把握の短期大学生調査の活用による改善策の立案など、持続可能な発展を促す見直しが必要である。調査から進学理由別の学修行動・意識の現状把握の短期大学生調査の活用による改善策の立案など、持続可能な発展を促す見直しが必要である。



	就職・専門興味	短大 雰囲気	専門学校 回避	他者の すすめ
就職するのに必要な資格が取れる	.888	-.092	-.090	-.030
就職に有利	.618	.009	.024	.153
自分の興味があることや専門分野の内容が学べる	.502	.180	-.026	-.111
4年制大学より早く就職できる	.375	.004	.177	.020
オープンキャンパスでの印象	-.002	.877	-.069	.003
キャンパスの雰囲気が良さそうだった	.033	.784	.025	.022
専門学校に行きたくなかった	.060	-.084	.639	-.066
専門分野以外の幅広い内容が学べる	.030	.187	.528	-.012
4年制大学に編入することもできる	-.098	-.061	.386	.103
家族や親せきからのすすめ	.002	-.023	.021	.577
高校の先生からのすすめ	.005	.053	-.012	.563
固有値	2.668	0.987	0.556	0.482
寄与率	24.3	9.0	5.1	4.4

主因子法、プロマックス回転、因子負荷0.3↑太字

	クラスター1 消極進学	クラスター2 大学志向	クラスター3 就職重視	クラスター4 積極進学
就職・専門興味	-1.37	-0.67	0.31	0.69
短大雰囲気	-1.31	0.18	-0.43	0.82
専門学校回避	-0.83	0.41	-0.48	0.53
他者のすすめ	-0.85	0.08	-0.23	0.51

(ケース数) (6959) (9646) (14545) (16633)

非階層的クラスター分析 (K-Means法)

### 学修行動

因子分析による「役立ち」変数の作成

- アクティブラーニング: ディスカッションや資料収集等学生の主体性に基づく学び
- 課題・テスト: 宿題や課題、小テスト等
- 授業への姿勢・態度: 遅刻・欠席や授業の退屈さなどネガティブな要素

### 学修成果

- 態度・志向性: ねばり強さ、チャレンジ精神、計画性など
- 知識・汎用的技能: 専門分野や学科の知識など
- 分析力・読解力: 数値やデータ、書籍、資料など分析し読解する能力

### 満足度

- 学習環境・学生支援: 教室・実習室や図書館、学生支援サービスなどの満足度
- 教育内容: 短大の教育に対する満足度
- 福利厚生施設: 食堂や購買などの施設に対する満足度
- 短大総合満足度: 短大充実度や他の人への短大の推奨度、短大における学生、教職員との交流、キャンパスの印象、短大での学びなど